



谷垣財務大臣による総務演説

総会は三日間にわたって開催され、本会議では各国代表による総務演説が行われました。総務会議長を務めた谷垣財務大臣は日本国総務演説の中で、「中南米・カリブ海地域とアジア地域が交流を深める時期において、アジア各地との交易の要衝として栄え、また、移民を通じて同地域と一世紀以上にわたる人的交流の歴史を持つ沖縄でIDB総会を開催することは極めて時宜を得たものである」と述べ、「アジア諸国が中南米・カリブ海諸国の重要な取引相手として急速に浮上してきている今、日本の信頼のおける安定的な経済パートナーとしての役割、そしてまたアジアと中南米・カリブ海諸国との間の仲介役としての役割はますます重要になると強く信じる」と言って締め括りました。



共同記者会見の様子（十二日）

最終日の総会終了後、上田財務副大臣（議長代理）・イグレスィアスIDB総裁・沖縄県知事の共同記者会見が行われました。上田副大臣は、多数国間投資基金（MIF）増資の決定などをあげて、「今後のIDBの中長期的な活動を決定する上で重要な節目の会議になった」と述べました。イグレスィアス総裁は、「今回の年次総会はIDBの歴史の中でも大成功であった」と述べ、総会やその運営を高く評価しました。稲嶺知事は「世界最大級の国際会議であるIDB／IIC総会の成功で国際会議開催のノウハウを蓄積でき、わたしは『コンベンションアイランド』の実現にさらに自信を深めた」と述べました。

共同記者会見

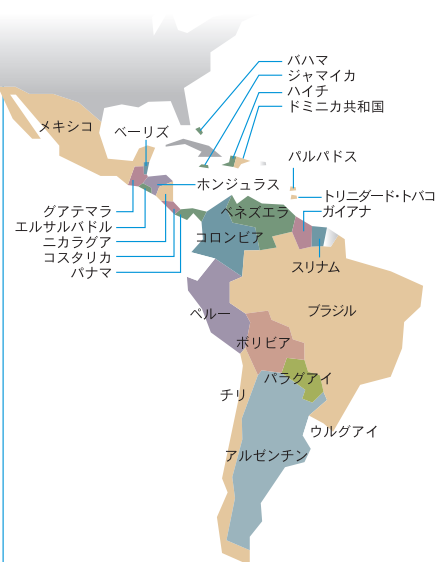
米州開発銀行（IDB）とは

米州開発銀行は中南米・カリブ海諸国の経済・社会発展に貢献することを目的として一九五九年に設立された地域開発金融機関で、英語名「Inter-American Development Bank」の頭文字をとって「IDB」と略されています。

IDBは銀行資本金が各加盟国政府の出資で構成されている公的な開発金融機関であり、その中南米・カリブ海諸国における開発プログラムの成功により、その他の地域で設立された同種の機関であるアフリカ開発銀行やアジア開発銀行などのモデルになりました。

IDBの創設時の加盟国はアメリカ合衆国と中南米諸国に限定されていましたが、その後カリブ海諸国、カナダ、さらに米州域外のヨーロッパ諸国、イスラエル、日本、韓国も加盟国となり、現在、域内二十八カ国（内借入国は米・加を除く二十六カ国）と域外十九カ国の四十七加盟国で構成されています。

IDBグループ借入加盟国



IDB加盟国:47カ国（平成17年3月現在。ABC順）

●域内加盟国(28カ国)

アルゼンチン、バハマ、バルバドス、ベリーズ、ボリビア、ブラジル、カナダ、チリ、コロンビア、コスタリカ、ドミニカ共和国、エクアドル、エル・サルバドル、グアテマラ、ガイアナ、ハイチ、ホンジュラス、ジャマイカ、メキシコ、ニカラグア、パナマ、パラグアイ、ペルー、スリナム、トリニダード・トバゴ、アメリカ合衆国、ウルグアイ、ベネズエラ

●域外加盟国(19カ国)

オーストリア、ベルギー、クロアチア、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、イスラエル、イタリア、日本、韓国、オランダ、ノルウェー、ポルトガル、スロベニア、スペイン、スウェーデン、スイス、イギリス



開会式で演説するイグレスィアス総裁

平成十七年四月十日から十二日にかけて、第四十六回米州開発銀行年次総会／第二十回米州投資公社年次総会（以下、IDB／IIC沖縄総会）が、沖縄コンベンションセンター及びラグナガーデンホテルをメイン会場に開催され、海外からの千三百名を含む多数が参加、コンベンションアイランド沖縄を世界に発信しました。（セミナーは四月六日から開催）

各種セミナー、調印式

総会に先立ち、セミナーが六日から開催され、沖縄県主催のセミナーを含め合計九つのセミナーが開催されました。七つの公式セミナーでは中南米・カリブ海諸国の開発について、国際的に広がる移民の本国への送金問題や、貧困や飢餓の撲滅などを目指すミレニアム開発目標の達成に向けた課題等多岐にわたって話し合われました。県主催のパラレルセミナーでは、金融特区を紹介しながら世界に向けて沖縄の潜在性をアピールした他、沖縄で開発されたEM（有用微生物群）技術を用いた人材育成の成功例が紹介されました。

また、日本での出稼ぎ後に帰国するブラジル人の起業などを支援するプロジェクトの調印式がIDBグループに属する多数国間投資基金（MIF）とブラジル中小企業支援事業団（SEBRAE）との間で行われたほか、WUBインターナショナルと米州投資公社（IIC）との間でも、中南米各国のウチナンチュビジネスに

対する投資、支援策で相互協力する覚書が調印されました。

開会式、本会議

四月十日に行われた開会式には、皇太子殿下に御臨席を賜り、ホンジュラス大統領、コロンビア大統領、ボリビア大統領、イグレスィアスIDB総裁、谷垣財務大臣等が出席されました。



本会議の様子

コンベンションアイランド沖縄を世界に発信

【IDB／IIC沖縄総会が成功裏に終了！】



最後に
IDB／IIC 沖縄総会では、多くの人・機関の協力によって運営されました。総会直前の三月下旬に財務省のIDB準備室と実行委員会、沖縄総合事務局IDB沖縄総会準備本部事務局が一緒になった合同運営本部がたちあがり、ボランティアや国・県・市町村からの応援職員等合計千八百名近くの方々が加わって、総会がスムーズに進行できるよう作業が集中的に行われました。これら全員の協力がこの総会を成功に導いたといっても過言ではないでしょう。最後になってしまいましたがお手伝にいただいた方には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



琉球海炎祭2005

会議の締めくくりとなったのは、琉球海炎祭二〇〇五による花火でした。IDB／IIC 沖縄総会への参加者も招待され、花火を見ながら最後の別れを惜しましました。



開会式当日の劇場棟入口の様子

IDB／IIC 沖縄総会では、会場が沖縄コンベンションセンター、宜野湾市立体育館、ラグナガーデンホテル及びフェスティバルの四ヶ所にわたりました。参加者の施設間移動の不便を軽減するため、この総会にあわせて、ラグナガーデンホテルと宜野湾市立体育館を、そして宜野湾市立体育館と沖縄コンベンションセンターを結ぶ道路が開通され、総会期間中はループバスが各施設を結びました。

IDB／IIC 沖縄総会には皇太子殿下の御臨席に加えて三カ国の大統領の参加もあり、各国の要人も数多く参加していたため、厳重な警備体制が敷かれました。

会場内の様子

一方、コンベンションセンター入口にはIDB旗、IIC旗と四十七加盟国の旗が掲げられ、南国の花やシーサーが参加者を出迎えました。会場内は、書道や生け花、焼き物、南国の花等で装飾され、参加者の目を和ませました。



会場内の装飾（書道と生け花）



万国津梁の鐘と加盟国旗

コンベンションアイランドを目指す沖縄県にとって、今回のIDB／IIC 沖縄総会を成功裏に終らせたことは、非常に意義深いことです。反省すべき点もいくつかありましたが、サミットに続いて、大規模な国際会議を経験したことによって、ノウハウが蓄積され、国際会議の運営に携わる人材の育成にもつながりました。今後は反省点を生かしつつ、そのノウハウを発揮する機会が増えることが望まれます。



歓迎行事・関連行事



谷垣大臣夫妻主催夕食会（十日）

IDB／IIC 沖縄総会においては、本会議やセミナーの他にも、産業視察ツアーやプレスツアー、同業者プログラムなどの関連行事や、IDB総裁主催ディナーや財務大臣夫妻催夕食会、沖縄県知事主催招宴などの歓迎行事も催されました。

財務大臣夫妻主催夕食会は首里城で開催されました。当日はあいにくの雨でしたが、首里城正殿内の見学等を行った後、下之御庭に設置されたテント内で夕食会が開催され、招待者はかぎやで風や四つ竹の群舞を楽しみつつ食事に舌鼓を打ち、沖縄の伝統文化を堪能しました。



フェアウェルレセプション（十二日）

十二日夕方からは、フェアウェルイベント「エキサイティング沖縄」が第四十六回米州開発銀行年次総会沖縄開催実行委員会事務局（以下、実行委員会）の主催で行われました。この中で、来年のIDB／IIC年次総会の開催地となるブラジルのミナス・ジェライス州ペロ・オリゾンテ市への引継式が行われ、稲嶺知事から、同州のブルーマー経済開発局長へ三線が贈られました。

IDBの役割

IDBは、これまで中南米・カリブ海諸国に対して、融資や技術協力などで公的機関として最大規模の資金を供給してきました。地域開発金融機関としての使命は、地域間や国内での貧困問題・経済格差の解消と、環境に配慮した持続的な経済発展支援、さらに貿易や地域統合の促進ですが、世界銀行やIMFとも連携して緊急融資をはじめとするマクロの経済危機対策にも取り組んできました。

IDBと日本の関わり

日本は十九世紀にまでさかのぼる移民の歴史に伴う社会・経済的な結びつきや、拡大し続ける中南米・カリブ海諸国との経済関係を背景に一九七六年にIDBに正式加盟し、以後人材・資金の両面から積極的に貢献してきました。加えて、一九九五年には東京に駐日事務所が開設され、我が国と中南米・カリブ海諸国の交流を維持し、更により緊密なものとするために活動しています。日本はアジアから最初の加盟国として、中南米・カリブ海諸国とアジア諸国の架け橋となることを目指しています。

